

コロサイ

人への手紙

③

キリストの 自由を生きる

コロサイ人への手紙 2章

律法主義からの脱却

アウトライン

0. イントロダクション

I. キリストのうちに 1～10節

II. キリストにある自由 11～23節

III. まとめと適用

キリストの自由を生きる

コロサイへの手紙とは？

■ 著者 …使徒パウロ（書記テモテ）

■ 宛先 …コロサイ教会

■ 執筆時期・場所

…獄中書簡。どこかは不明。
エペソの獄中という説も。
(ピレモンとの関連)

■ 目的 …異端的教えへの反論



コロサイの信者を惑わしていた二つのこと

①グノーシス

霊(精神) = 善、肉体(物質) = 悪、という 霊肉二元論

- 創造の業を軽視
- キリストの受肉を否定、
- 人の内にある罪の問題を軽視、救いの必要性も否定。

②律法主義者

異邦人は、ユダヤ人のように律法を守らないと救われない

- 行いによる救い
- 恵みの福音を否定



I. キリストのうちに

1~10節

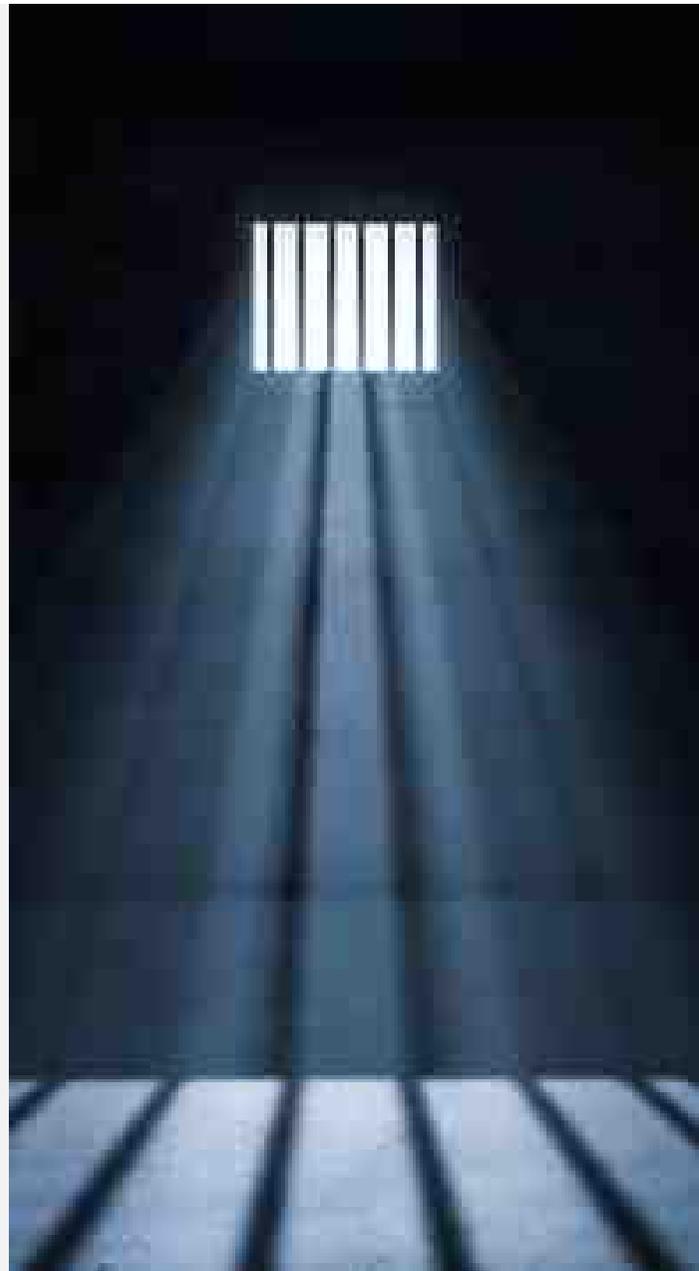
コロサイ・ヒエラポリスの遺跡

願い 苦闘の意味 コロサイ2:1~2

私が、あなたがたやラオディキアの人たちのために、そのほか私と直接顔を合わせたことがない人たちのために、どんなに苦闘しているか、知ってほしいと思います。

私が苦闘しているのは、この人たちが愛のうちに結び合わされて心に励ましを受け、さらに、理解することで豊かな全き確信に達し、神の奥義であるキリストを知るようになるため*です。

■パウロが望むのは、救いと信仰の成長*



警告 知恵と知識の宝 コロサイ2:3~4

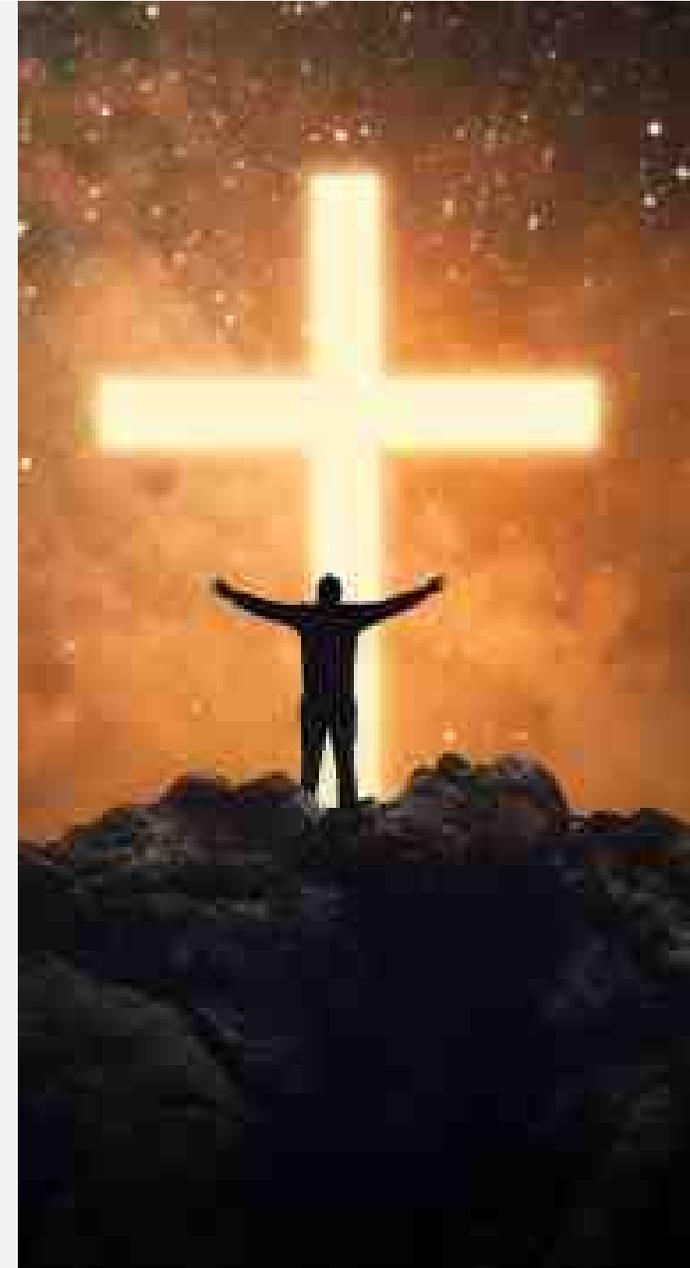
このキリストのうちに*、知恵と知識の宝がすべて隠されています。

私がこう言うのは、まことしやかな議論によって、だれもあなたがたを惑わすことのないようにするためです。

■ 信者の知るべき知恵と知識は、

すべてキリストのうちに*にある!!

→ 惑わしはみな、キリストの外から来る



願い キリストによって歩め コロサイ2:5~6

私は肉体においては離れていても、霊においてはあなたがたとともにいて、あなたがたの秩序と、キリストに対する堅い信仰を見て喜んでいきます。

このように、あなたがたは主キリスト・イエスを受け入れたのですから、キリストにあって歩みなさい*。

■ 救われた信者に求められるのは、**信仰の成長***

➔ **成長し続ける = 真理にとどまり続ける**



警告 偽りの教えの束縛 コロサイ2:7~8

キリストのうちに根ざし、建てられ、教えられたとおり信仰を堅くし、あふれるばかりに感謝しなさい。

あの空しいだましごとの哲学*によって、だれかの捕らわれの身にならないように、注意しなさい。それは人間の言い伝え*によるもの、この世のもろもろの霊によるもの*であり、キリストによるものではありません。

*文脈から考えると、律法主義

*“昔の人の言い伝え(マタイ15:5他)” →口伝律法

*口伝律法の背後には、悪魔、悪霊が!!



真理 かしらなるキリスト コロサイ2:9~10

キリストのうちからこそ、神の満ち満ちたご性質が形をとって宿っています。

あなたがたは、キリストにあって満たされているのです。キリストはすべての支配と権威のかしらです。

- キリストのからだの一部である信者は、キリストをかしらとし、キリストに満たされ、支配されている。

(エペソ5:23他)





Ⅱ. キリストにある自由 11～23節

ヒエラポリス

真理 キリストの割礼 コロサイ2:11~12

キリストにあって、あなたがたは人の手によらない割礼*を受けました。肉のからだを脱ぎ捨てて、キリストの割礼*を受けたのです。

バプテスマ*において、あなたがたはキリストとともに葬られ、また、キリストとともによみがえらされたのです。キリストを死者の中からよみがえらせた神の力を信じたからです。

*聖霊によるバプテスマ

➔福音を信じた瞬間、古い自分は死に、復活。
キリストに完全に浸されている。



真理 十字架による解放 コロサイ2:13~14

背きのうちにあり、また肉の割礼がなく、死んだ者であったあなたがた*を、神はキリストとともに生かしてくださいました。私たちのすべての背きを赦し、私たちに不利な、様々な規定で私たちを責め立てている債務証書*を無効にし、それを十字架に釘付けにして取り除いてくださいました。

*異邦人がコロサイ教会の中心だったと分かる

*人の罪を突きつける律法は役目を終えた

→キリストが十字架上で律法を完遂



真理 自由の凱旋 コロサイ2:15

そして、様々な支配と権威の武装*を解除し、それらをキリストの凱旋の行列に捕虜として加えて、さらしものに*されました。

*悪魔、悪霊による支配

→福音を信じた瞬間、永遠の滅びから解放

*十字架でキリストが勝利

→再臨のメシアが、地上から悪を一掃!!



警告 キリストの影 コロサイ2:16~17

こういうわけですから、食べ物と飲み物について、あるいは祭りや新月や安息日のこと*で、だれかがあなたがたを批判することがあってはなりません。これら*は、来たるべきものの影*であって、本体はキリストにあります。

*モーセの律法

*律法は、メシアを示す影

➡本体のキリストが御業を成し遂げた今、
律法の役割は終わった!!



警告 天使礼拝者 コロサイ2:18~19

自己卑下や御使い礼拝*を喜んでいる者が、あなたがたを断罪することがあってはなりません。彼らは自分が見た幻に拠り頼み、肉の思いによっていたずらに思い上がって、かしらにしっかり結びつくことをしません。このかしらがもとになって、からだ全体は節々と筋によって支えられ、つなぎ合わされ、神に育てられて成長していくのです。

*体験重視の神秘主義者、ユダヤ教の一派にも

*キリストの教えの学びを軽んじる人々



警告 主にある自由 コロサイ2:20~21

もしあなたがたがキリストとともに死んで、この世のもろもろの霊から離れたのなら、どうして、まだこの世に生きているかのように、「つかむな、味わうな、さわるな*」といったために縛られるのですか。

＊律法主義者にもグノーシスにも共通

- 救われた者は、外部から汚されることはない
神が造られたものは、すべて良いもの
→感謝し味わうように促されている



警告 人間の教えの虚しさ コロサイ2:22～23

これらはすべて、使ったら消滅するものについての定めで、人間の戒めや教えによるものです。

これらの定めは、人間の好き勝手な礼拝、自己卑下、肉体の苦行のゆえに知恵のあることのように見えますが、何の価値もなく、**肉を満足させるだけ***です。

- 律法主義やグノーシスは、肉体的な喜びを否定、霊的なように見せかけながら、実は、**肉を満足させるだけ***という矛盾





Ⅲ. まとめと適用

キリストの自由を生きる

ヒエラポリス・円形劇場

クリスチャンの自己認識

■福音を信じたクリスチャンに求められる自己認識

①キリストのうちであり、

②キリストの自由のうちに、

③キリストにあって歩むこと

①キリストのうちにある

福音を信じた瞬間から、私たちは、キリストのうちにある

① 聖霊にバプテスマされ、聖霊が内に住まわれている

→ 聖霊の内住

② キリストのからだの一部とされ、かしらがキリスト

→ 普遍的教会の一員

③ キリストに似たものとされている

→ キリストの似姿

②キリストの自由のうちにある

福音を信じた瞬間、神の永遠の所有とされて、自由を得た。

① 罪の債務証書は無効にされた → 悪魔の奴隷からの解放

② 主イエスが勝利された

→ 悪魔の裁きは時間の問題

③ 律法にも口伝律法にも偽りの教えにも束縛されない

→ 主イエスの教えが解放をもたらす

③キリストにあって歩んでいく

■キリストにあって歩んでいく、信仰者に求められる変化と成長
「私が苦闘しているのは、この人たちが愛のうちに結び合わされて心に励ましを受け、さらに、理解することで豊かな全き確信に達し、神の奥義であるキリストを知るようになるためです。コロサイ2:2」

- ①キリストのからだ(普遍的教会)に結び合わされる →励まし
- ②御言葉の理解を深め、確信を強めていく →全き確信へ
- ③キリストを「知る」 →全身全霊がキリストと一体化

★ 偽りの教えに惑わされないために ★

■ 偽りの教えへの最大の対抗策は、私たち自身の**信仰の成長**

→ **聖化**の過程を着実に歩み続けていくこと!!

■ 信仰の兄弟姉妹、地域教会とつながる → 普遍的教会の大前提

聖書を学び、正しく理解を深める → 救いの確信を深めていく

キリストを知る → 自分の内で聖霊の支配領域を拡大させる

私は、変えられ続け、成長し続けているだろうか？

自分自身の信仰の成長をもって、生きた証しを立てていこう!!

てん とう
「天のお父さま。わたしは、あなたに背き、^{そむ} 罪を^{つみ}重ねてきました。
ひび おか つみ こくはく つみ
日々犯してしまう罪をも告白します。この罪をゆるしてください。

わたしは、^{かみ} 神のみ子^こイエス・キリストが、
つみ あがな じゅうじか し

①わたしの罪を贖うために十字架で死に、

はか ほうむ

②墓に葬られ、

みっかめ ふっかつ

③三日目に復活した^{しん}こと、を信じます。

わたし あい きょうだいしまい とも た
私は、愛する兄弟姉妹と共に、キリストのからだを建てあげていきます。

ねっしん しゅ みちび したが せいしょ まな すく かくしん つよ
ますます熱心に、主の導きに従って聖書を学び、救いの確信を強めます。

わたし うち みたま しはい りょういき ひろ
どうか、私の内で、御霊が支配される領域をさらに広げてください。

にすがた しゅ ちか つづ
キリストの似姿として、主に近づき続けていけますように。

しゅ な いの
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」